

## 新POSや電子レジカードがメインシステムの拡張性の高さもアピール

ホテルシステムベンダーの(株)タップは、HCJ2019で新製品の紹介を行う。同社営業本部営業部課長代理村山和歩氏は次のように語る。

「当社はソフトウェア開発会社で、特定のハード機器のみを前提とした開発は行っておりませんので、PMS・サブシステムとも、拡張性や外部システムとの柔軟な連動性の高さが特長の一つです。当社のシステムだけでなく関連システムとの連動についても、ご相談ください」

### POSや電子レジカードをPMS連動で効果的に活用

大きなバージョンアップを行った新POSシステムは、Google Chromeを使用するため端末選択の幅が広く、コンパクトなシステム構成を実現。視認性や操作性などのインターフェイスを高め、メニュー写真の掲載も可能と、はじめて手にするスタッフでも簡単に利用開始できる。ホテル業務に精通した同社のシステムだけに、PMSやサブシステムの連携もしっかりと確保されている。

過去利用の実績管理や顧客

情報、経営分析などにも、ユーザーのリクエストに対応ができる。また付帯施設などでも使用が可能。POSシステムを、周辺機器という位置づけではなく、総合情報システムに組み込んで提供できるのが、タップのサービスの強みだ。

### 電子レジカードシステムも

実機に触れてみたい。登録会員やOTA予約などで事前情報が入っていれば、タブレット上のサインだけで宿泊名簿業務が完了。OCRで手書き文字を認識し、PMSに自動登録されるため、ペーパーレス化が実現する。こうした製品は既に複数が登場しているが、タップのPMSを利用していれば、別サーバを立てる必要がなく統一管理ができる。PMSユーザーの要望から開発した製品である。このサービスでもWindowsタブレットであれば、OSバージョンやマシンスペック以外に端末の制約はないので、施設の条件に応じたシステムを構築できる。ナイトスタッフや紙のレジカードをPMSに打ち込むといった業務は省力化の障害になっている。また、宿

泊客にとってもチェックインのスピードアップは大きなメリット。電子レジカード化は確実に進行するだろうが、製品選択については、同社のPOS同様、PMSとの連動性を重視して選択する必要があると見られる。

### 多機能でローコストな小規模施設向けシステム

宿泊特化型ホテルや旅館経営者は、「WEB予約・宿泊管理システムaccommod(アコモド)」の使い勝手も確認しておきたい。ホテルやゲストハウスなどの小規模施設が導入しやすいよう、初期費用無料・月額料金は宿泊料金の1%というローコストでの利用を可能としたサービスである。機能は基本的な宿泊管理業務をカバーし、WEB予約システムも備えている。ネット環境があればすぐに使えるクラウドサービスで、50室程度までの宿泊主体型ホテルや旅館なら十分な機能を持つ。クレジット事前決済では英・中(簡/繁)・韓の4ヶ国語にも対応し、海外OTAなど連動したインバウンド対策にも有効だ。

この他、既存システムの発展バージョンとして、大量データ処理・分析システムの「Loupe BI(ルーベビアイ)」のレストラン版のデモを行う。宿泊部門版は、PMSや表計算ソフトでは処理が難しかった大量の宿泊データを処理し、グラフなどで可視化するシステム。同様の機能をFB部門にコンバージョンしたのがレストラン版で、飲食売上が収益に大きな比重を占める多機能ホテルで有効な経営判断ツールとなりそうだ。IoT機器では、デリバリーロボット「reia(リレイ)」のデモを行う予定。ロボットによるサービスの端緒として、興味深いプレゼンテーションとなるだろう。



同社システムは拡張性や外部システムとの柔軟な連動性の高さが特長のひとつだ。